



第46回熊本県学校事務 研究大会 一速報一

熊本県学校事務研究協議会
 発行人 会長 宮崎 文子
 編集代表 研究部長 山本 晋也

～目次～

- 日程
- 講演
- 交流会参加レポート
- あとがき
- 大会アンケート

令和5年2月17日（金）、第46回熊本県学校事務研究大会を参集とライブ配信のハイブリッド型にて開催いたしました。当日は義務制経験3年未満の方は研究大会を生で経験していただきました。また、ライブ配信もたくさんの方々にご視聴いただき、大会を終えることができました。熊事研役員一同、厚く感謝申し上げます。

日 程

12:50～ アクセス開始

13:00～ 開会行事

13:10～ 講演「社会に開かれた教育課程と学校事務

ーカリキュラム・マネジメントを担う事務職員の役割を考えるー

愛知教育大学 教育学部 教員支援専門職養成課程
 教育ガバナンス講座 教授 風岡 治 氏



14:00～ 休憩

14:20～ パネルディスカッション

テーマ「子どもたちの笑顔を未来につなぐ学校の協創

～社会に開かれた教育課程を目指して～

助言者 愛知教育大学 教育学部 教員支援専門職養成課程

教育ガバナンス講座 教授 風岡 治 氏

パネリスト

宇城市立松橋中学校 校長 田中 誠 氏

長崎県佐世保市立浅子小中学校 事務主任 宮本 隆宏 氏

氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校

主任事務長（氷川町学校事務センター長） 神尾 浩輔 氏

コーディネーター 宇城市立松橋小学校 主任事務職員 山本 晋也

15:40～ 休憩

15:50～ 全事研実行委員会活動報告

16:20～ 閉会行事



講演 「社会に開かれた教育課程と学校事務

ーカリキュラム・マネジメントを担う事務職員の役割を考えるー」

愛知教育大学 教育学部 教員支援専門職養成課程

教育ガバナンス講座 教授 風岡 治 氏

講師の風岡様は、学校事務職員、文部科学省や教育委員会を経験後、教育経営学を専門に、教育財政や教育事務について研究をされています。また教育委員会等とのかかわりを多く持ち、コミュニティスクールや働き方改革、公立学校の魅力化等、学校教育に多方面から大きく力を注いでいらっしゃいます。様々な経歴や経験から、学校事務職員は広く視野を持つておくべきという点から講演を始められました。

冒頭では、教授を務められている愛知教育大学教育学部教育支援専門職養成課程について、組織や実践についてお話いただきました。熊本県学校事務研究協議会からも愛知教育大学の学生との交流学习への参加があったとのお話がありました。

「社会に開かれた教育課程について」

まず学校事務職員のスキルについてお話をされました。学校事務職員は、一般的な行政職員が身に付ける財務や総務といったスキルとは別に、学校教育の在り方・福祉・子どもの権利等も知識として身に付け、教員と同じように教育について語り合える必要があると話されました。そして「社会に開かれた教育課程と学校事務」というテーマから、そもそも教育課程とはどういったものか、今回は学習指導要領を基に「学校の教育活動全体の基幹となる計画」と位置付けてお話をされました。

社会に開かれた教育課程について、学習指導要領では「学校に関わる全ての大人に期待される役割」とされていることを挙げ、これからの教育課程の理念について説明されました。幅広い視野を持ち、よりよい社会づくりを目指すという理念を社会と共有すること、これからの社会を担う子どもたちに必要な資質や能力を明確化すること、学校教育を閉鎖的なものにせず社会と連携することで教育目標を実現させていくこと、この3つの理念を挙げ、教育課程そのものを社会に開いていくことが重要であると話されました。

「カリキュラム・マネジメントについて」

またカリキュラム・マネジメントについても触れられ、カリキュラム・マネジメントにおける学校事務職員の役割について述べられました。学校事務職員の仕事を、カリキュラムの視野で見えていくと「学校レベルでの計画（教材・教具・施設・設備の整備計画）」、「教室での実践（教材・教具・ゲストティーチャーの整備）」等があり、これらは意識的・無意識的に行われているのではないかと話されました。教職員の経験や勘というのはとても重要だが、学校にはそれだけではどうにもできない事象が起こるため、そういった事象を解決するために、学校事務職員にはデータや記録を基に支援をお願いしたいとお話されました。また、資源の獲得（学校予算・財務）は学校問題解決の基盤となるので重要であるとお話されました。



「事務職員と学校、地域との関わりについて」

最後に、学校と地域の連携プロセスに学校事務職員が関わる例として、①学校運営協議会を円滑に進行する事務局、運営協議会委員としての関わり②地域との連絡調整コーディネーターとしての関わり③学校評価、学校関係者評価担当者としての関わり④地域への学校広報(学校からの情報提供)の担当者としての関わり、といった4つの視点よりお話していただきました。学校事務職員の方々には、経験を通じて学習していくサイクルを大切にして日々の業務にあたってほしいと講演をしめられました。

パネルディスカッション

テーマ「子どもたちの笑顔を未来につなぐ学校の協創

～社会に開かれた教育課程を目指して～

助言者	愛知教育大学 教育学部 教員支援専門職養成課程 教育ガバナンス講座 教授	風岡 治 氏
パネリスト	宇城市立松橋中学校 校長 長崎県佐世保市立浅子小中学校 事務主任 氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校 主任事務長（氷川町学校事務センター長）	田中 誠 氏 宮本 隆宏 氏 神尾 浩輔 氏
コーディネーター	宇城市立松橋小学校 主任事務職員	山本 晋也

パネルディスカッションでは、今年度の研究テーマである「子どもたちの笑顔を未来につなぐ学校の協創」を目指していくためにはまず、「教員のカリキュラム」と「学校事務職員のカリキュラム」をつなぐことが重要ではないかと、コーディネーターの山本研究部長より話を始めました。

討議の柱1として【学校事務職員が教員等とつながるために、日々の仕事にどう取り組んでいくと良いか】について、仕事を楽しんで行う工夫や実践事例の紹介等を交えながらご意見をいただきました。宮本様は、ステージから降り、参加していた義務制経験3年目以下の参加者と交流しながら「バイアスを取り払う」「自分を自分でコーチする」「学び続ける」という視点でお話いただきました。神尾様からは事務長としての立場からお話を伺いました。「職場の雰囲気子どもたちの笑顔につながる」ということを意識していること、相互理解や話し合える関係性の構築に取り組まれているそうです。田中様は、学校事務職員からの情報発信や、事務室の外に出てコミュニケーションを取ることが重要ではないかとお話され、教員と接点を持つことを期待されました。

助言者の風岡様からは、管理職や教員とのつながりは不可欠であるかと投げかけがあり、接点やコミュニケーションは業務の上で確実に必要であるが、学校事務職員同士が成功例と失敗例を共有していくことも大切でないかとお話されました。



討議の柱1で学校事務職員が積極的に教員等と関わっており、そのような学校事務職員の取り組みが一定の効果を生み出しているということが分かりました。そこで、そこから一步踏み出し、討議の柱2として【学校事務職員が地域と積極的に関わること】について、ご意見をいただきました。「社会に開かれた教育課程」を目指すことで学校事務職員の負担が増える可能性があるが、果たして負担が増えるだけなのか、地域に学校事務職員が積極的に関わるために、何を意識してどう行動すればいいのかという点を含め、活発な討議が行われました。

神尾様からは氷川町で実際に取り組みを行う中での業務増に対する課題について、田中様からは学校事務職員が携わる電話対応や来客対応の部分は学校の顔であり地域との連携を深める上で不可欠といった話をいただきました。宮本様からは様々な情報を知っていくことの必要性、知ることによって変わる意識の持ち方や行動の在り方についてお話をいただきました。

最後に風岡様より、学校の組織運営や学校評価、企画段階から学校事務職員が意思決定に関わることが大切であり、それが「学校事務をつかさどる」ということにつながっていくのではないかと全体のまとめをいただきました。

最後に、本日私たちがインプットしたことを、明日からの業務を通して先生方、学校、地区研活動にアウトプットしていくことで、子どもたちの笑顔が周りに、そして未来につながっていくことを願っています、と山本研究部長が結びパネルディスカッションは終了しました。



全事研実行委員会活動報告

全国公立小中学校事務職員研究大会佐賀大会実行委員会 実行委員長 福永 高嗣 様より、全国公立小中学校事務職員研究会「第10次研究中期計画の解説」を行っていただきました。令和5年度で終了する第9次研究中期計画の進捗として、第51回岡山大会から第54回愛媛大会までの成果と課題の発表が紹介されました。

第10次研究中期の方向性を6つ(①第4期グランドデザイン策定に向け「ウェルビーイング」に着目②第8次、9次研究中期計画を継承しつつ、支部にとっては、地域の実態に応じた柔軟な研究推進ができるもの 会員にとっては、より実践につながる研究をすることができるもの③「地域ととともにある学校」を実現していく事務職員・共同学校事務室の役割を追求④「多様な主体(人)との協働によって問題解決」事務を司る職として、専門性を発揮し、学校全体を俯瞰した政策を提案・実行していく事務職員の姿を描く⑤学校の課題への対応に必要な教職員の専門性の向上を牽引する人材育成が事務職員にも、求められている⑥学校事務が担うべき領域として、戦略領域を提示する)を挙げられ、研究の柱として「全事研の事業目標にある学校事務の研究・事務職員制度の確立の推進。グランドデザインに掲げるミッション・ビジョンの達成。」を挙げられました。

令和8年度の年次別課題は「学びの機会の保障」であり、それに向けて全事研では研究を進めていることをお話されました。全ての子どもたちに等しい教育を、という意味ではなく個に

応じた教育の機会の提供を、という意味であると説明されました。

また全事研実行委員会として、学校事務職員のキャリア形成から見る未来についてお話がありました。熊本県の小中学校の学校事務職員にもジョブローテーションにより様々な「キャリア」が生まれたことで、全事研実行委員会では「学校事務の未来に大きな可能性がある。」と考えている、というお話がありました。経験で自分を磨き、経歴で人脈を育み、職歴に自覚を持ち、職責を果たすことが未来につながる。個人だけでなく、共同実施や事務センターでも同じことが言え、異動等があってもスムーズな運営が可能になるのではとお話をまとめられました。



大会アンケートについて

大会終了から2月22日（水）16：00まで、大会参加者アンケートを実施いたしました。一部御紹介させていただきます。回答していただいた皆様、御協力いただきありがとうございました。今後の運営の参考にさせていただきます。

勉強になりました。内容がもりだくさんでした。研究がどんどん先に進んでいる印象です。すごいなと思いました。準備等大変だったと思います。ありがとうございました。

コロナ禍の中、研修をしていただいたこと感謝します。いろいろ大変だったことと思います。勝手な感想を言っていますが、役員の方が工夫、苦勞をして開催していただいていることは分かっています。早く全員での集合研修ができるといいですね。その日を楽しみにしています。

事務職員としてどれくらい学校運営に関わっていけるのか、いっていいのかよく理解できていなかったが、そういう思いを取り払い、積極的に関わっていくことが大事だと思った。いま行っている業務をただこなすのではなく、意味を持たせながら何に繋がるのか考えながらやっていきたい。

今回の研修で改めて意識と行動の改革が必要だと感じました。今後にかしていきたいと思います。たいへんお世話になりました。

運営や講師依頼等、会を主催された方にお礼申し上げます。オンラインで貴重なお話を聴くことができるのも皆さんのおかげだと思います。ありがとうございました。

運営に当たられた皆様については、校務多用な中、本当に頭が下がります。しかし、役員業務について勤務時間内への影響など、役員業務の効率、縮小化も検証をお願いします。過去に役員経験があり、県内外の方と共有できた時間は貴重な経験をさせていただいたことはとても有意義でしたが、皆さんが無理なく活動できることを願っています。

「九州地区若手事務職員交流研修会」が下記の日程のとおり開催されました。研究部のメンバーだけでなく、会員の方も参加されました。参加レポートを書いていただきましたので、ご紹介いたします。ご協力いただきありがとうございました。

日 時：令和4年10月14日（金） 12：30～

場 所：九州大学西新プラザ 大会議室 A

主催者：佐賀県公立小中学校事務研究会

長崎県公立小中学校事務職員研究会

対象者：公立小中義務教育特別支援学校事務職員（39才以下または経験年数15年以下）

日 程：12：30～12：35 ①コミュニケーションとは（アイスブレイク）

12：35～12：45 ②グループワーク（ドローアピクチャー）

12：45～12：55 ③なぜコミュニケーション力・交渉力・決断力なのか？（講義）

12：55～13：40 ④グループワーク（クロスロード）

13：40～13：50 ⑤対話とは（講義）

休憩

14：00～14：50 ⑥グループワーク（ディスカッション）

休憩

15：00～15：45 ⑦社会教育士とは（講義）

15：45～16：30 ⑧社会に開かれた教育課程（ディスカッション）

社会に貢献する学校事務職員

（シラバスより）

（研修の目的）

企業向け新人研修プログラムを通じてコミュニケーション力・交渉力・決断力を養う。

（研修の概要）

企業人事担当者向けプログラムの経験者より、座学形式ではない体験型の研修を行います。

（研修の目標）

体験型の研修により、他者の多様な考え方に触れることで社会に開かれた教育課程の必要性を理解し、社会に貢献する学校事務職員の実践へと結びつけていきます。

（研修の進め方と方法）

①②最初にコミュニケーションワークを経験することによりコミュニケーションの取り方を学びます。

③問題意識を提示します。

④⑤クロスロードを使いながら対話の重要性を体験を通して学びます。

⑥合意形成を図る訓練プログラムを行うことで交渉力と決断力のスキル向上へと結びつけていきます。

⑦社会に開かれた教育課程において形成すべき概念的知識をインプットします。

⑧受講者のコミュニケーション力・交渉力・決断力のスキル向上にどのような視座を与えるか受講者のみなさんと考えていきます。

（参加者の感想①）

昨年度から2年連続で参加させていただきました。今年度は昨年度よりもさらに多くの方と関わる機会が設定されていて、他県の事務職員の方々の現状や悩み等を聴くことができ、自分自身のモチベーションアップにつながりました。また、グループワークを通して、ノンテクニカルスキル（コミュニケーション力・交渉力・決断力等）を学び、それらのスキルの重要性に改めて気づかされました。今回学んだことを意識しながら日々の業務に取り組んでいきたいです。

津奈木町立津奈木小学校 山内 悠加

（参加者の感想②）

10月14日若手事務職員研修会に参加し、他県の市立高校の予算の使い方、管理職の採用方法などを聞かせていただいた。特に諸手当調査を民間へ委託しているのには驚いた。

また、話の中で、学校事務職員として、学校全体を俯瞰し、第三者の目線からアプローチすることが大切とも言われていた。

NASAゲームもあり、初めて会う他県の事務職員に対して、自分の意見をどこまで通すか、相手との意見の折り合いを付ける難しさを感じた。今回は学校バージョン（学校で災害が起きた場合のNASAゲーム）だったため、ゲームの中で熊本地震での体験や当時の学校の様子、実際におこなった対応について話すこともできた。

10月15日未来への風プロジェクトに参加し、学校の現状をおさらいし、よりよくするためには、どうしたらいいか、自分の意見を伝え合った。グループワークでは、10年後の理想から逆算して、今は何から始めるかを出し合い、グループ毎に発表をおこなった。事務職員だけでなく、社会教育士の方や、教頭先生も研修に参加されていたため、様々な角度からのアイデアに感心した。

2日間の研修をとおして、自分では思っけなかつたアイデアに触れることができ、とても刺激になった。また、理想を語るのは恥ずかしい面もあるが、ワクワクすることのほうが多く学校や事務センターなどでも、語り合う場があれば、よりよい学校に近づくような気がした。

山鹿市立鹿北中学校 水本 利奈

（参加者の感想③）

働き方改革が急務と言われる学校現場において、勤務時間内に教職員を巻き込んで「夢や目標」を話し合うことはとても貴重な機会であり、改めて時間と場所を設けることは、難しいのではないかと思います。では、そのような機会を勤務時間外に設けられるかということ、勤務時間の面で働き方改革と反しており、全体を巻き込んで行うことは難しいのではないかと感じます。仕事ではなく、自主的に研修会に参加してしまえばいろいろ考えなくていい！！興味があることについて、興味がある人たちと話し合う会は楽しいだろうなと思ひ参加してみました。

実際に参加してみると、全国各地から、幅広い年代の方がいらっしゃいました。たくさんの方の「学校がこんな風になるといいな」を聴くことができ、ワクワクしたし、とてもおもしろかったです。

私がいつも当たり前のように行っていることは、当たり前ではないのかもしれないという感覚をいただきました。勉強をさせていただき感謝しています。学校に勤務する大人が笑顔で時間を過ごし、子どもたちが安心して夢を持てるような社会を目指し、少しでもお力になればと思っています。



山鹿市立山鹿中学校 福田 賢太郎

あとがき

風岡様のご講演にもありました、事務職員に求められるスキルの話を聞いて納得しました。学校教育法など名前を知っているだけで、中身を知らない事がたくさんあります。根拠を明らかにし、子どもたちの笑顔のために意識しながら業務に取り組んでいきたいと思います。

熊事研研究部 情報調査班 会報担当

